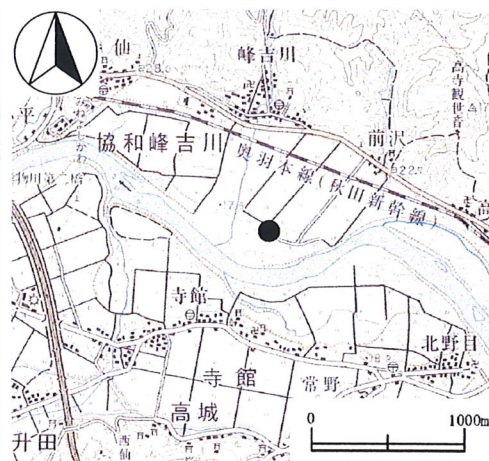


峰吉川中村遺跡発掘調査資料



遺跡遠景（東から撮影）



遺跡の位置（●印）

1 調査要項

所在地	秋田県大仙市協和峰吉川字中村15-8ほか		
遺跡状況	荒蕪地		
調査面積	803㎡		
遺跡の時代	縄文時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代、江戸時代		
遺跡の性格	集落跡、散布地		
調査目的	雄物川上流河川改修事業（中村芦沢地区）		
調査期間	令和2年9月1日～10月30日		
調査主体者	秋田県教育委員会		
調査担当	秋田県埋蔵文化財センター 文化財主査 高橋和成 文化財主事 小松和平		
調査総務担当	副主幹 柴田優 主事 渡辺昂		
調査協力機関	国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所 大仙市教育委員会		

2 調査の結果

検出遺構				主な出土遺物	
平安時代	竪穴状遺構	1基	溝跡	1条	縄文時代 縄文土器
	柱穴様ピット	2基			平安時代
鎌倉・室町時代					須恵器 土師器
	井戸跡	6基	カマド状遺構	3基	鎌倉時代・室町時代
	溝跡	1条	土坑	8基	須恵器系陶器 青磁
	柱穴様ピット	1基			瓷器系陶器 木製品(箸)
江戸時代	土坑	1基			江戸時代 陶磁器
時期不明	土坑	11基	柱穴様ピット	43基	

3 調査のまとめ

峰吉川中村遺跡は、JR奥羽本線峰吉川駅の東南東約1.7kmに位置し、雄物川の右岸、標高16~18mの微高地に立地しています(①)。ここは、かつて中村集落があった場所ですが、雄物川の築堤工事のため集落は集団移転しています。築堤工事に先立って平成26年度に発掘調査が行われています。その調査により遺跡は、平安時代から中世を経て江戸時代まで断続的に営まれた集落跡で、それ以降も現代まで集落が継続してきたことが明らかとなりました。



今回の発掘調査は、平成26年度の未調査範囲を対象に行いました。遺跡全体の中では西端にあたります。調査の結果、縄文時代から江戸時代までの遺構・遺物が見つかりました。その中でも特に、鎌倉・室町時代のもが多く、中世に活発に利用されていたことが分かりました。

調査区は農道を挟み西側と東側に分かれます。

西側調査区では、平安時代の溝跡や堅穴状遺構、中世の井戸跡やカマド状遺構などを検出しました。カマド状遺構とは、屋外につくられた半地下式のカマドです。その構造は燃焼部、焚口、煙り出しのための煙道からなり、これらは地下でトンネル状につながっています。県内各地の集落遺跡や城館跡などで見つかっており、本遺跡周辺の微高地上でも多くみられます。しかし、その構築方法は一様ではなく、地山を掘り抜いて燃焼部や煙道を構築するものや、掘り下げた後に粘土を積み上げて構築するものがあります。また、構造についても、煙道や上屋の有無などの違いがあります。その一方、出土遺物がほとんどないという共通点があり、何に使用されたのかは不明ですが、煮沸や灰採取などの用途が考えられています。平成26年度調査でもカマド状遺構が31基見つかっています。そのうち保存状態が良く構築方法を確認できたものは全て地山を掘り抜いて構築するタイプで、上屋は確認されていません。今年度調査で見つかったカマド状遺構で構築方法を確認できたのは1基だけで、地山を掘り込んだ後、比較的粘性の高い土を用いて天井部を構築していることがわかりました(②)。また、焚口が長く、手前には炭や灰を掻き出すための空間がありました。周辺で柱穴様ピットを確認しており、上屋が付く可能性があります。遺跡内の他のカマド状遺構に比べ1m程標高の低い位置に立地しており、洪水堆積物により埋没していることが確認できました。構築方法や立地、上屋の有無などが遺跡内の他



のカマド状遺構と異なることから、時期や用途も違っていたと考えられます。これと隣接するカマド状遺構(③)は、燃焼部の天井部分が崩落しており、煙道には礫を詰めて埋め戻していることなどから、意図的に廃絶した可能性があります(④)。



東側調査区は近代から現代まで中村集落の墓地であった場所です。その造成によって大きく攪乱を受けていましたが、削平を免れた中世の井戸跡やカマド状遺構、溝跡などを検出しました。井戸跡は全て素掘りのもので、木杵は確認できませんでした(⑤)。確認面から約2mの深さで、底面の標高は前回調査で周辺から見つかっている井戸跡とほぼ同じです。遺構内堆積土の観察から、人為的に埋め戻されていることが分かりましたが、埋土中に炭化物の薄い層が形成されるものが多くありました(⑥)。



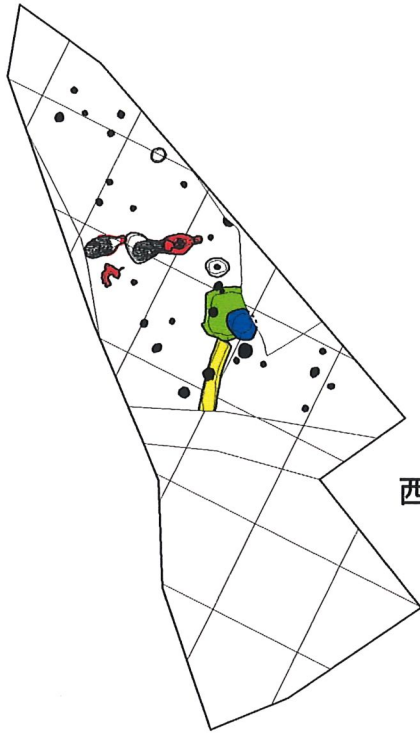
これらは、井戸を途中まで埋め戻した段階で、焼土が形成されない程度に火を焚いたものと考えられ、廃絶に係る儀礼などの痕跡の可能性がります。



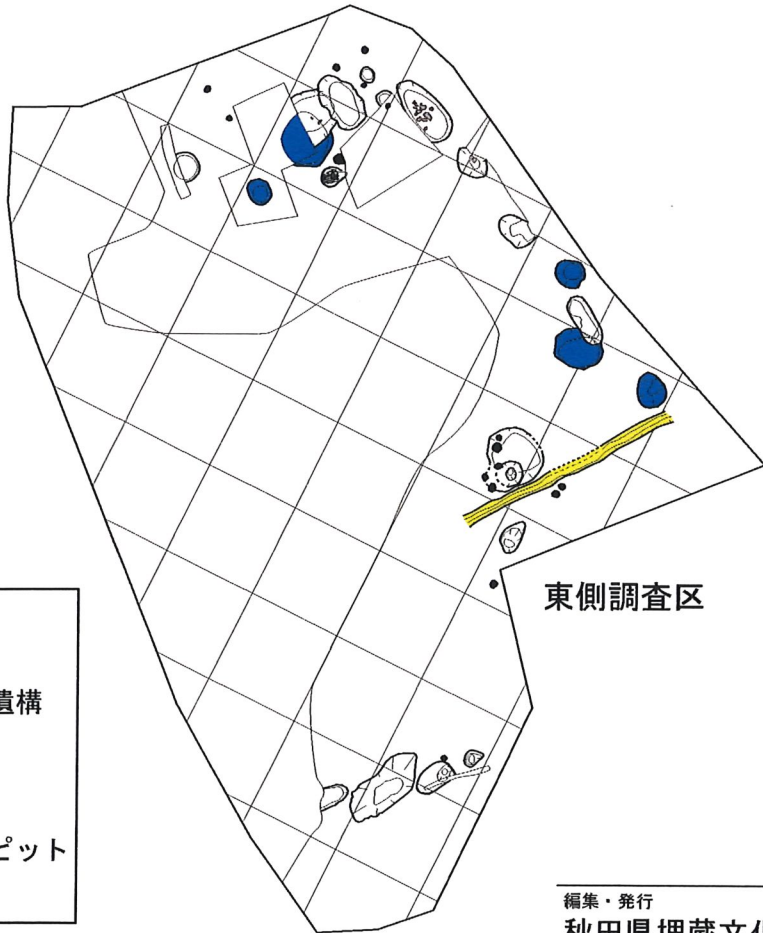
出土した遺物は、縄文土器、土師器、須恵器、中世陶磁器、近世陶磁器などがあります。中世の須恵器系陶器(⑦)が最も多く、大仙市南外の大畑・桧山腰窯跡で製作されたものも含まれます。その他、越前や瀬戸・美濃で生産された^{しき}瓷器系陶器や中国産の青磁などが出土し、中世の流通の様子をうかがうことができます。









本調査により、記録保存が必要な範囲の調査を完了させるとともに、峰吉川中村遺跡の集落としての広がりをもさらに確認することができました。今後、集落の各時期の状況を検討し、遺跡の性格や特徴を総括していきたいと思ひます。



西側調査区



東側調査区

凡例			
	:土坑		: 竪穴状遺構
	:カマド状遺構		:溝跡
	:井戸跡		:柱穴様ピット

編集・発行

秋田県埋蔵文化財センター

〒014-0802 秋田県大仙市私田字牛嶋20番地

令和3年3月

国土地理院発行の5万分の1地形図(刈和野)を使用

峰吉川中村遺構配置図 (S=1/300)